

JENESYS 2016 招へいプログラムの記録 (対象国：ASEAN 9 カ国、東ティモール及びインド、テーマ：経済第 2 陣)

1. プログラム概要

ASEAN9 カ国及びインド、東ティモールより国際ビジネスに関心を有する高等専門学校生・大学生・大学院生・社会人ら 236 名が、9 月 26 日～10 月 4 日の 8 泊 9 日の日程で来日し、経済（経済連携、貿易・投資促進）をテーマとしたプログラムに参加しました。一行は、都内で日本と ASEAN9 カ国及びインド、東ティモールとの経済関係及び今後の展望についての講義を聴講し、その後、グループに分かれて福島県、静岡県、愛知県、大阪府、兵庫県、滋賀県、京都府を訪問し、海外展開を進める中堅・中小企業の訪問や視察を実施しました。一行は、プログラム中、日本のものづくりの姿勢、製品と農産品に強い関心を示し、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また、帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎に発表しました。

【参加国・人数】

236 名（インド 22 名、インドネシア 22 名、カンボジア 22 名、シンガポール 21 名、タイ 22 名、東ティモール 21 名、フィリピン 18 名、ブルネイ 20 名、ベトナム 22 名、マレーシア 21 名、ミャンマー 25 名 ※50 音順）

【訪問地】

東京都（全員）、福島県（63 名）、静岡県（91 名）、愛知県（82 名）大阪府（82 名）、兵庫県（82 名）、滋賀県（82 名）、京都府（82 名）

2. 日程

9 月 25 日（日）、26 日（月） 成田／羽田国際空港より入国

9 月 26 日（月）オリエンテーション

9 月 27 日（火）【日本理解講義/基調講義の聴講】

グループ A/B/C: 経済連携（農業）SIMA 国際経営研究所 所長 木村 秀夫

グループ D/E/F/G/H/I/J: ものづくり & 交通システム 東京大学名誉教授 木内 学

【都内視察】江戸東京博物館

9 月 28 日（水）～10 月 2 日（日）10 グループに分かれ、各地方を訪問

（1）グループ A/B/C：福島県

【地域産業・企業視察】株式会社パソナ農援隊（農業関連研修事業）

【地域概要講義の聴講】福島県庁

【地域産業・企業視察】福島農業総合センター（農産物放射能観測センター）

グループ A:

【地域概要講義の聴講】天栄村

【文化体験】白河だるまの絵付, 天栄米を使ったおにぎり作り

【地域産業・企業視察】きゅうりん館(きゅうりの大型自動選果施設)

【地域産業体験】稲刈り体験

【ホームステイ】

【ワークショップ】

グループ B/C:

【地域概要講義の聴講】喜多方市

【地域産業・企業視察】日中ダム視察(土地改良区事業)、JA 会津よつば(アスparaガス選別結束予冷施設), 若喜商店・蔵、味噌醤油醸造

【地域住民・企業関係者との交流会】

【文化体験】赤べこ絵付け

【ホームステイ】

【ワークショップ】

(2) グループ D/E/F/G : 静岡県

【地域概要講義の聴講】静岡県庁

【経済関連講義の聴講】静岡県国際経済振興会

【地方自治体表敬訪問】静岡県知事

グループ D/E:

【地域産業・企業視察】ヤマハ発動機株式会社, ユニクラフトナグラ株式会社(製造業: 精密自動車部品、精密家電部品等)

【最先端技術】スズキ歴史館

【産業観光視察】有限会社 春華堂(菓子製造)

【地域産業・企業視察】

【経済交流会】

【歴史的建造物視察】龍潭寺

【文化体験】静岡濾布染色

【ホームステイ】

【地域住民・企業関係者との交流会】

【ワークショップ】

グループ F/G:

【企業視察】アサヒ飲料株式会社 富士山工場

【自然体験】白糸の滝

【歴史的建造物視察】富士山本宮浅間大社, 三島市内(日大三島高校生との交流)

【地域産業・企業視察】JATCO 株式会社(自動車用変速機・パワートレインの開発・製造), ビール工房見学

【文化体験】書道、日本調理作り、茶道（日本大学大学生との交流）
【最先端技術視察】 セグウェイ体験他
【地域産業・企業視察】
【地域住民・企業関係者との交流会】
【ワークショップ】

（３） グループ H/I/J：愛知県、大阪府、兵庫県、滋賀県、京都府

【経済関連施設視察】 リニア・鉄道館
【経済関連講義の聴講】 近畿運輸局
【地域産業・企業視察】 川崎重工業株式会社（新幹線車両等製造業）-インド訪
日日の視察，b マレーシア，フィリピン，シンガポール訪日日の視察，東海旅
客鉄道株式会社鳥飼車両基地（新幹線の運行運輸業、車両点検），神戸新交通シ
ステム株式会社，大阪高速鉄道株式会社
【ホームステイ】
【文化体験】 近江日野商人館・ふるさと館
【歴史的建造物視察】 伏見稻荷大社
【ワークショップ】

10 月 3 日（月）東京へ移動

報告会（訪日成果・帰国後の活動計画発表）

10 月 4 日（火）成田/羽田 国際空港より出国

3. プログラム記録写真

共通（都内）

	
9/27 【日本理解講義の聴講/基調講演】	10/3 【報告会】
【Lecture on Japanese Culture/Key Note Lecture】	【Reporting Session】

グループA/B/C:福島県

	
9/28 【地域概要講義の聴講】 福島県庁	9/29 【地域産業・企業視察】 福島県農業総合センター
【Lecture on Outline of the Region】 Fukushima Prefectural Government	【Observation of Regional Industry/ Company】 Fukushima Agricultural Center
	
9/29 【文化体験】 白河だるま絵付け	9/30 【地域産業・企業視察】 きゅうりん館（きゅうりの大型自動選果施設）
【Cultural Experience】 Shirakawa Daruma Doll Painting	【Observation of Regional Industry/ Company】 Kyurin-kan (Cucumber Sorting Facility)

	
9/30 【地域産業体験】 稲刈り	10/1 【ホームステイ】
【Observation of Regional Industry /Company】 Rice Harvesting	【Homestay】

グループD/E：静岡県

	
9/28 【地方自治体表敬訪問】 静岡県知事	9/29 【地域産業・企業視察】 ヤマハ発動機株式会社(輸送用機器製造・販売)
【Courtesy Call】 Governor of Shizuoka Prefecture	【Observation of Regional Industry/Company】 Yamaha Motor Co., Ltd. (Transportation Machine manufacturing and its Sales)
	
9/29 【地域産業・企業視察】 ユニクラフトナグラ株式会社(製造業：精密自動車部品、精密家電部品等)	9/30 【歴史的建造物視察】 龍潭寺

【Observation of Regional Industry/Company】 Unicraft Nagura Corporation (Automobile Parts Manufacturer)	【Observation of Historical Landmark】 Ryo-Tanji Temple
	
9/30 【地域住民・企業関係者との交流会】	10/1 【ホームステイ】
【Exchange with Local Residents and Business Officials】	【Homestay】

グループF/G：静岡県

	
9/28 【地方自治体表敬訪問】 静岡県知事	9/29 【地域産業・企業視察】 アサヒ飲料株式会社 富士山工場（清涼飲料水、製造・販売）
【Courtesy Call】 Governor of Shizuoka Prefecture	【Observation of Regional Industry/Company】 Asahi Soft Drink Fuji-san Plant (Production and Sales of Soft drinks)

	
9/30 【地域産業・企業視察】 JATCO 株式会社（自動車用変速機・パワートレインの開発・製造） 【Observation of Regional Industry/Company】 JATCO Ltd. (Development and production of automatic transmission and power train for automobiles)	9/30 【文化体験】 日本料理作り 【Cultural Experience】 Japanese cooking
	
10/1 【最先端技術視察体験】 セグウェイ 【Observation of Cutting-Edge Technology】 First-hand experience of Segway	10/2 【地域住民・企業関係者との交流会】 【Exchange with Local residents and Business Officials】

グループH/I/J：愛知県、大阪府、兵庫県、滋賀県、京都府

	
9/28【経済関連視察】リニア・鉄道館	9/29【経済関連講義の聴講】国土交通省近畿運輸局鉄道部
【Observation of Economic-related Facility】SCMAGLEV and Railway Park	【Lecture on Economic Field】Train Service Dept., Kinki District Transport Bureau, Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
	
9/30【地域産業・企業視察】川崎重工業株式会社（新幹線車両等製造業）	9/30【地域産業・企業視察】東海旅客鉄道株式会社鳥飼車両基地（新幹線の運行運輸業、車両点検）
【Observation of Regional Industry /Company】Kawasaki Heavy Industries, Ltd. (Manufacturer of Trains)	【Observation of Regional Industry /Company】Central Japan Railway Company Osaka Rolling Stock Depots (Bullet Train Maintenance Facility)

	
9/30【地域産業・企業視察】神戸新交通株式会社（ポートライナー、六甲ライナーの運行運輸業）	9/30【地域産業・企業視察】大阪高速鉄道株式会社（大阪モノレールの運行運輸業）
【 Observation of Regional Industry /Company】Kobe New Transit Co., Ltd. (Train System Operator)	【 Observation of Regional Industry /Company 】 Osaka Monorail Co., Ltd. (Monorail System Operator)

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ミャンマー、社会人

私は日本に来たことがなかったので、最初の基調講演で日本の人々、文化や先端技術について聞いて驚きました。大震災からすぐ復興したことにも大変感心しました。ヤマハ発動機株式会社、スズキ歴史館とユニクラフトナグラ株式会社で学んだことは大変ありがたかったです。各企業の技術や、ビジネスにおいて成功するキーポイントについて多くの知識を得ました。それから、経済交流会に参加できたことも素晴らしい機会となりました。日本の経済関係者と知り合い、よい関係を構築することができました。忘れることのできないもうひとつの素晴らしいできごとは、ホストファミリーと本当に楽しい時を過ごしたことです。ホストファミリーの思いやりと気配りを忘れることはないと思います。

◆ ベトナム、社会人

JENESYS2016 のプログラムは、日本で意義ある経験ができたという点でとても素晴らしいプログラムでした。晴れた日に成田に降り立ち、まず成田山新勝寺に案内され、そこで長旅の疲れの後で落ち着いた景色と日本の美しい秋を楽しむことができました。翌日は、日本で一番有名な東京大学の名誉教授である木内教授の講義を聞き、世界をリードする技術を持つ日本の製造業について学びました。その中でも特に、改善キャンペーンとものづくりの精神について非常に感銘を受けました。日本人は同じ場所にとどまってはいません。毎日、どうやって自分たちに活力を与えていくかを、いつも考えているのです。全ての人がその精神を持っていることが素晴らしいと思いました。他の先進国より自然災害が多い厳しい環境の中で、諦めることなく不幸な事態にもきちんと備えています。旅行中、日本の人々のおもてなしの気持ちには心を動かされました。どこに行っても、特にアサヒ飲料とJATCOでは、温かくご親切に受け入れてもらいました。この国を訪れる人はみな、このおもてなしの気持ちに感激すると思います。今回の初めての訪日で、このように繁栄

しているアジアの先進国を見ることができて、視野が広がりました。これは、間違いなく他のアジアの国にとって、ぴったりで素晴らしいお手本になっていると思います。

◆ マレーシア、社会人

公共交通機関、特に鉄道の開発、実現について、日本政府が各地域で果たしている役割の大きさを学ぶのはとても興味深かったです。リニア-モーターカー技術においては、世界に先駆けて開発されており、日本の果たす役割は称賛に値すると思います。また一般の人たち、特に子供たちに対して、鉄道技術を紹介し教育する施設を展開し、多大な努力をしていることに刺激を受けました。子供たちは刺激を受けて将来の進路につなげていくことと思います。日本は鉄道機関の安全性、メンテナンス管理に関し高水準を維持し、開業以来 52 年間死亡事故ゼロ記録を持っています。現場においてチェック、ダブルチェック、反対方向からの再チェックと多重的に検査を実施するメンテナンス方式は世界中に広めるべきだと思います。ホームステイは、日本の平均家庭がどのように日常を過ごしているか、実際に経験し、最も深く心に残るプログラムでした。ホームステイの間、日本の人たちがどんなに丁寧に客をもてなすか、何事にも完璧を求め、時間通りに進めることを重要視し、安全性や健康面について心を配っているかを、目の当たりにしました。そうして私たちは、日本が技術を見習うだけの国ではなく、エコシステムや、生活の仕方も見習うべき国であることを認識しました。

5. 受入れ側の感想

◆ 受入先企業担当者

今回来社頂いた訪日団の参加者の皆さんに、弊社からの説明に大変熱心に耳を傾けて頂き、大変嬉しく感じております。弊社の事業や企業理念から、ちょっとした豆知識まで、十分に理解を深めていただいたと感じています。説明後にもたくさんの質問を頂き、非常に積極的な姿勢で臨んで頂けたことを実感しており、我々にとっても刺激になりました。弊社は様々な事業を展開しておりますが、事業規模の一番大きなモーターサイクル事業については、アセアン地域が重要な市場になっています。皆さんが弊社に対して良い印象を母国に持ち帰って頂ければ嬉しく思います。

◆ 受入先企業担当者

このようなプログラムで、海外から多くの若者が来てくれて国際交流をすることにより、日本への親近感が増すという期待値は非常に大きいです。将来、日本で職業を選んでくれることや、観光旅行で家族連れで来てくれる可能性を広げる良い企画であると思います。受け入れ側も英語力の向上に努める必要性を痛感しました。また、若い訪日団に喜多方の蔵や郷土芸能などの伝統文化や、地方都市の経済や雪国の設備などを知ってもらう良い機会になったと思います。

6. 参加者の対外発信

 you also can log in to http://www.freshnewsasia.com/	 you also can log in to http://www.freshnewsasia.com/
アセアン及び他のアジア諸国の若者たちが東アジア青少年大交流計画(JENESYS)を通して日本の農業や社会を学ぶため来日しました。(web ニュース)	日中ダムを見学後、カンボジア・東ティール両国の参加者は、地域の人々の生活を守る為に電気供給のみならず水に関わる様々な問題を解決するダムを設計した日本人の発想力・創造力に強い感銘を受けたと述べました。(web ニュース)
Youths from ASEAN Member States and other countries in Asia visited Japan to study agriculture and Japanese society through an exchange program known as Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youths (JENESYS).	After the study visit to Nichu Hydro-power Dam, both youth from Cambodia and Timor-Leste expressed strong impression of the innovation and creativity of Japanese people in transforming the water into many different usage and purposes to benefit the local people.

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

II- Action Plan: Knowledge sharing Context - Agricultural technology - Disaster prevention - Multi-purpose Nicchu dam - Japanese culture - Promoting young entrepreneurs	II- Action Plan: Knowledge sharing How? - Social media - Brochures, events/workshops - Knowledge sharing session to family members, classmates, colleagues...
<u>アクション・プランの発表（発表内容）</u> タイトル「知識の発信」 発信内容 -農業技術 -防災 -多目的ダム -日本の文化 -若い起業家養成促進	<u>アクション・プランの発表（発信手段）</u> タイトル「知識の発信」 発信手段 -SNS -パンフレット、催し、ワークショップ -家族、大学の仲間、職場の仲間等と知識を共有する機会をつくる
<u>Action Plan: Knowledge sharing</u> <u>Context</u> -Agricultural technology -Disaster prevention -Multi-purpose Nicchu dam -Japanese culture -Promoting young entrepreneurs	<u>Action Plan: Knowledge sharing</u> <u>How</u> -Social media -Brochures, events/workshops -knowledge sharing session to family members, classmates, colleagues...